

どんびま

2015年4月9日発行
発行者 桜の湖農業小学校

自然は暦

桜の湖の桜は満開に近い。サクラのサは稲または稲の神を意味し、クラは神の座のことである。つまり桜は稲作りの仕事を始める合図に花を咲かせる神(自然)の木なのである。各地にある苗代桜はその代表である。

飛騨の名峰笠ヶ岳は春になると山頂直下に馬の雪形が現れる。人々はこれを田植えの時期の目安としてきた。

昨日、我が家へ訪ねてきた人が、「私の近所のは茶色くなってしまっているが、此処のモクレンは真っ白ですね」と誉めて行った。町の方よりは芽吹きが遅いので遅霜にあたらなかったのだ。農家には遅霜の目安にする物がいくつかある。隣のおばあさんは我が家のナツメの芽吹きを種蒔きの目安にしている。ケヤキの芽吹きを観る人もある。ケヤキが一度には芽吹かず、芽の出た枝とまだ出ない枝がある時は、遅霜がくるのだという。自然には不思議な力がいっぱいある。(草)



4月授業日のご案内

- | | | | |
|-----------------|------------|-------|-----------------------|
| ●日程 | 4月19日(日) | ●服装 | 作業のできる服装 |
| 受付 | 9:00~ 9:30 | ●持ち物 | 手袋、タオル、長靴、雨具、お茶(水筒)、箸 |
| 始めの会 | 9:30~ 9:45 | | レジャーシートなど |
| 授業 | 9:45~12:00 | | 運動会のできる服装 |
| 桜の湖へ移動 | 12:00~ | ●郷土料理 | タケノコご飯のお弁当 |
| 昼食 | | | |
| グループ対抗大運動会(桜の湖) | | ●締め切り | 4月17日(厳守) |
| 現地解散 | | | |

●問い合わせ・緊急連絡 TEL 0573-75-4417 ・090-5110-9362(山内總太郎)
※雨天の場合は、予定変更が有ります。

～とくちゃんの農小レポート～

私立椛の湖農業小学校第22期入学式

入学おめでとうございます。

普通の学校より一足早いため、桜の見頃には出会えませんでした。椛の湖周辺では沢山の桜が咲き誇ります。秋には椛の木の紅葉も見られます。自然を満喫しながら一年間楽しんでください。

1 入学式

- 1 校旗掲揚。5年生6年生により校旗が掲揚されました。
 - 2 校長挨拶。安保（あぼう）校長から、一年間元気に通学し怪我の無い様にご気を付けて、自然を楽しみながら過ごして下さいと話されました。
 - 3 来賓挨拶。坂下総合事務所長（挨拶）。JA坂下支店長。荒城農小代表。
 - 4 農場長説明。鈴村農場長より、施設・設備などについて、また今後行う作業の注意点などが話されました。
 - 5 グループ紹介。1グループより順に前に出て並び、マイクを通して自己紹介をしました。早くお友達になれるようにしましょう。
 - 6 先生の紹介。各グループの前に立ち3人の担当先生が紹介されました。
 - 7 スタッフの紹介。運営に携わる主に男性スタッフと、賄いを担当する女性の皆さんが紹介されました。
- 無事入学式は終了いたしました。

2 五平餅づくり。

各グループごとに団子を握り、串に刺して焼き上げる体験をしました。

この地方の五平餅は団子を竹串に刺して炭で焼きます。いわゆる御幣餅（板ごへい）とは形が違います。農業小学校では原則として、昼食は郷土食又は行事食となっています。時には皆さんで作って頂くことも有ります。

3 昼食。

五平もち、豚汁、コンテツ・ちくわの天ぷら、烏賊とねぎの酢味噌和え、ひじき・シーチキン・かいわれのサラダ、切干大根・シラス・ねぎのサラダ、小室ねぎの生食、ハウレンソウとしめじのオリーブオイル炒め。

4 午後の授業。

- 1 ジャがいも。畑に入れられないため、包丁を使っての切り分け、灰付け作業のみ行ないました。小松菜、ほうれん草、人参、二十日大根は、農場長による種の紹介が行なわれました。いずれも後日先生方が植え付け、種まきをいたします。
- 2 椎茸菌の打ち込み。各生徒1本あての原木（なら、栗など）に、駒菌をうちこみました。一年半の時を経て来年の秋には椎茸が生えてきます。

5 終わりの会。

雨の為早めの解散となりました。

～とくちゃんのちょっと一言～

アボ兄からも少し紹介が有りましたが、2月26日には中日パレスにおいて、第74回（S15年より）中日農業賞特別賞を戴きました。21年も前から全国に先駆けて立ち上げた、子供達に食農体験をさせるという、画期的な活動に取り組んできた事が、審査員の目に留ったものであり特別賞となりました。スタッフの一員としてとても誇りに思い励みにもなります。

～ あぼ兄の百姓ぼなし～

土を作る 土を残す

桜が満開というのに、4月に入ってからは雨ばかり。この時期の長雨を菜たね梅雨という。長い冬から目覚めた木々が、芽を吹き伸ばすには雨が必要なのだ。

毎年の農小の入学式は荒れた日が多かった。今年は、朝の内は穏やかでホッとしていたが、天気予報通り、昼ごろから雨になってしまい、予定していたニンジン、ホウレンソウの種蒔きとジャガイモ植えが出来なかった。後日、先生方にしていただいた日、今年から参加された新しい先生が「よく肥えた土ですね」と言われた。

開校以来、農小の畑は堆肥だけで、化学肥料は一切使っていない。作付前には、あぼ兄の有機堆肥を全面に散布して掘り起こす。その後に作物に合わせてそれぞれに特製堆肥をさらに入れる。『作物を作る前に土を作れ』と言われるように、長い間土作りを基本にしてきただけに、新しい先生が聞いてくれたことが嬉しかった。

また、農小の畑では除草剤や農薬は一度も使っていない。ある年のこと、赤カブ、大根の葉が虫に喰われて穴だらけになった。「生徒さんに出来の良い野菜を持ち帰ってもらいたい」といつも思っている先生たちが、あぼ兄に内緒で殺虫剤を使おうかと相談していた（もちろん使いはしなかった）ことを後になって聞いたことがあった。年によっては収穫皆無ということもあったが、これが有機（無農薬）農法なのだというのを、虫の穴は安全の印だということを理解してほしいと説明してきた。今は防虫ネットを使用して虫による被害を減らしている。

平成 10 年、東海テレビ「テレビ博物館」の取材を受けた。テーマは「土」、8月の日曜日5週連続の放送だった。6月からレポーターの俳優川津祐介さんの取材が始まった。内容は「良い土」と「悪い土」それぞれ10㎡の畑をセットして、同じ作物を植えて生育の比較をするものだ。「良い土」は有機肥料の入った農小の畑の土を、「悪い土」は道路の横に崩れていて雑草も生えていない土を使った。風化していない土は微生物も住めないのだから当然作物はあまり育たない。「土って何だろう」という別例では、三原山の噴火した灰が時を経て植物が生きられる状態の土に成るまでを伝えるものもあって、広範囲な内容だった。番組には、土だけでなく、椀の湖農小の子どもたちも出演した。それ以来、川津さんとは親交が続いていて、あぼ兄の大きな財産になっている。

昨今は、土を使わない水耕栽培や、ハウス栽培で虫はおろか汚染された大気もシャットアウトできる栽培も行われている。それでも避けられないのは、福島原発から出る目に見えないゴミだ。「土一斗、米一斗」とも言われ土を大切に作ってきた農民の心を思うと、やり切れない怒りを抑えられない。除染などは完全に出来る筈はないし、郷土へ帰る事さえ出来ないでいるのだ。

昨年暮、地元中津川の仲間で、フォーク歌手の笠木透君が亡くなった。全国で反戦・平和を歌い続けて、これほど有名な無名の歌手はいない。4月4日の「お別れコンサート」には全国各地から1000人を越す人が集まった。

40年前に作った彼の歌「私の子どもたちへ」は現代を歌っている。

生きている鳥たちが 生きて飛びまわる空を あなたに残しておいてやれるだろうか 父さんは {*近づいてごらんなさい 山が見えるでしょう 目をとじてごらんなさい コブシの花があるでしょう}

生きている魚たちが 生きて泳ぎ回る川を あなたに残しておいてやれるだろうか 父さんは {*くりかえし}

生きている君たちが 生きて走り回る土を あなたに残しておいてやれるだろうか 父さんは {*くりかえし}

～かなちゃんの虫日記～

雨の中での五平もち作りなどおつかれさまでした。
若いみなさんは疲れることはあまりないと思いますが、大人は
疲れやすいです。（私は大人です。よく若くみられますが、
ほぼ30才です…）そんな疲れた日におすすりめなのか
ゴキブリ体操です。

あおむけに寝て、手足を宙に上げ、ブラブラブラとゆすります。
これだけですが、たるさがスッキリします！

私がこれをやっていたら隣で寝ていた晴くん（6カ月の息子）も
同じようなことをやっていた。晴くんはゴキブリ体操ではなく、
ねがえりの練習です。すんなりとひっくり返れない女はなかなか
起き上がれないひっくり返ったカメムシにそっくりです。
昔、そんなカメムシもコマみたいにぐるぐるって回して遊んで
いたのをふと思い出しました。

カメムシって家の中に突然登場しますよね。そんな時
外に出そうとしてあおてへたにつかむとくさいにおいを出してきます。
カメムシは成虫は中足とうしろ足のつけねの間にある穴からにおい
を出します。こちらからちよっかいをたさなければにおいは出してこない
ですよ。やさしく指につかまらせて外にほいっと投げれば、

